

令和6年度 福津市立津屋崎中学校 学校自己評価(前期)

	評価項目	回答者	質問内容	観点評価	評価換算(%)	観点評価	評価換算の平均	総合評価	考察・改善策	
福津市共通項目	学校	自尊感情	生徒	1. 自分にはよいところがあると思う。	2.85	82.20	B	90.3	A	生徒のポイントが若干低い。学校行事や授業、部活動等で生徒が活躍できる場を設け、成功体験を重ねて自己有用感を高めるようにしたい。
			保護者	1. 子どもの良い言動に対して、きちんとほめたり認めたりしている。	3.21	92.90	A			
			教師	1. 生徒の良い言動に対して、きちんとほめたり認めたりしている。	3.29	95.80	A			
		きまり	生徒	2. 学校のきまり(規則)を守っている。	3.49	95.50	A	95.7	A	
	保護者	2. 学校のきまり(規則)を守るように話している。	3.29	96.50	A					
	教師	2. 学校のきまり(規則)が守れていない時は、必ず注意する。	3.25	95.90	A					
	話し合い	生徒	3. 友達と話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりできた。	3.33	88.90	B	85.4	B	授業を中心に生徒同士が話し合いする場(班での交流や学び合い等)を意識して設定するようにしている。学級会も行事の時を中心にしている。また、総合的な学習においても生徒主体の活動にすることで、話し合いの場が自然にできている。そういう場を継続して設けていきたいと思っている。	
	保護者	3. 子どもとの会話を積極的にしようとしている。	3.29	92.60	A					
	教師	3. 学活、教科の授業などで、話し合う活動を意識して取り入れている。	2.96	75.00	B					
	いじめ	生徒	4. いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	3.71	96.70	A	97.9	A		いじめについては、日常的な観察や月に1度のアンケートなどを行い、早期発見・早期指導に努めている。また、学年集会などでも繰り返し指導を行ってきた。今後も、取組を継続していきたい。
	保護者	4. いじめはどんな理由があってもいけないことだと話している。	3.61	97.10	A					
	教師	4. いじめはどんな理由があってもいけないことだと指導している。	3.92	100.00	A					
家庭	家庭学習時間	生徒	5. 平日の学習時間は1時間をこえている。	2.66	56.60	C	57	C	「なぜ学習するのか」について、生徒に啓発を行い、授業外学習の浸透に努めてきたが、まだ顕著な成果は出ていない。本年度は、自学ノートの取組以外に、試験前の質問教室や夏休みの宿題点検・補充学習などの新たな手立てを打っている。今後、期待している。	
		保護者	5. 平日の学習時間が1時間をこえるように声掛けしている。	2.63	56.00	C				
		教師	5. 平日の学習時間が1時間をこえるように指導している。	2.63	58.30	C				
家庭	家庭学習	生徒	6. 家で自分で計画を立てて勉強している。	2.59	54.60	C	70.5	B		計画的に学習ができるよう、自学ノートの取組、定期考査前や夏休みなどの計画を通して指導している。これも、家庭学習と同様に、「なぜ学習するのか」といったことを生徒に考えさせ、理解させていくことが必要だと考える。継続して、指導していきたい。
		保護者	6. 子どもが計画的に学習するよう働きかけている。	2.84	71.80	B				
		教師	6. 日常やテスト前の家庭学習が計画的にできるよう指導している。	3	83.30	B				
家庭	朝ごはん	生徒	7. 毎日朝食を食べている。	3.66	92.90	A	89	B	食育については、給食指導や家庭科の授業を中心に進めている。小学校からの継続した取組と保護者の協力で朝食をとることが習慣化されている家庭が多い。今後、100%を目指していく。	
		保護者	7. 毎日朝食を食べさせている。	3.67	94.80	A				
		教師	7. 朝食の大切さを指導したり、食べるように話をしたりしている。	3.08	79.20	B				
地域	地域行事	生徒	8. 進んで地域の行事やボランティアに参加し、自分のできることをしている。	2.49	49.90	C	61.3	C		ボランティアに参加した延べ人数は増えているが、参加する生徒は複数回参加するが、まだ1度も参加していない生徒も多いため。本年度はボランティア部を立ち上げて、広報活動に取り組み、積極的にボランティア活動が広がるようにしていきたい。
		保護者	8. 地域の行事を紹介したり、参加することをすすめていたりしている。	2.74	63.20	C				
	地域性	生徒	9. 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	2.82	70.70	B	76.2	B		
		保護者	9. 地域や社会で起こっている問題や出来事に対して、子どもに伝えたり、話したりしている。	3.04	83.00	B				
地域	地域性	教師	9. 地域や社会で起こっている問題や出来事に対して、生徒に伝えたり、話したりしている。	3.04	75.00	B	76.5	B		
		生徒	10. 自分の希望をかなえるために必要な家庭学習を考え、自学など計画的に取り組んでいる。	2.88	68.30	C				
地域	地域性	保護者	10. 子供に、希望する進路を実現するために必要な家庭学習を考えさせ、計画的に取り組むよう促している。	2.87	73.70	B	83	B	授業においては、課題解決型の授業と、その基礎をつくる基本的な知識技能を習得する授業がある。その両方をバランスよく行うことが必要である。	
		教師	10. 生徒に、希望する進路を実現するために必要な学習を考えさせ、計画的に取り組むよう指導している。	3.13	87.50	B				
地域	地域性	生徒	11. 交流の場面で自分の考えを伝え、相手の意見をしっかりと聞いている。	3.17	86.80	B	83	B		
		保護者	11. 子どもが感じた疑問について、解決していくよう促している。	3.05	87.20	B				
地域	地域性	教師	11. 課題意識をもたせ、他者と交流し、解決していく課題解決型の授業を行っている。	2.88	75.00	B	89	B		
		生徒	12. 積極的にあいさつ運動に参加・参画して、学校や校区、地域を明るくできるように行動している。	2.87	68.50	C				
地域	地域性	保護者	12. 子どもと、「おはよう」「ただいま」等のあいさつをきちんとしている。	3.56	98.40	A	89	B	日頃の挨拶はよくできるようになってきている。しかし、挨拶運動(おはようチューズデー)は、多くの生徒が参加する体制にはなっていないため、評価が低くなっている。多くの生徒が参加できる体制にしていきたい。	
		教師	12. 自分から生徒にあいさつをしたり、生徒に進んで挨拶ができるよう指導している。	3.46	100.00	A				
地域	地域性	生徒	13. 地域の未来や発展について考え、自分にできることを主体的に考えたり、地域貢献したりしている。	2.71	62.60	C	63.9	C		質問項目8、9同様に低い値になっている。2学期以降に実施するふるさと学習の充実を図り、防災学習・訓練など生徒が積極的に地域の良さや課題を知り、自分が地域にできることを考える場面をつくっていきたい。
		保護者	13. 子どもと、地域の未来や発展について話したり、地域貢献を促したりしている。	2.63	58.30	C				
地域	地域性	教師	13. 生徒と、地域の未来や発展について話したり、地域貢献を促したりしている。	2.92	70.80	B	87.8	B		
		生徒	14. 地震や津波が起こった時の対処法がわかっている。	3.22	88.50	B				
地域	地域性	保護者	14. 地震や津波が起こった時の対応について、家族で共通認識している。	3.01	83.30	B	60.1	C	生徒は昨年度からの防災訓練を主体的に実施したため、避難所での行動の意識が高まっている。訓練が地域の方と生徒で行っているために、教師・保護者値が低くなっている。教師も保護者も、防災の意識を高め、子供と学んでいくようにしていきたい。	
		教師	14. 地震や津波が起こった時の対処法を生徒に教えている。	3.33	91.70	A				
地域	地域性	生徒	15. 避難所での生活がどのようなものかわかっている。	3.06	75.80	B	95.6	A		スマホ等の適切な使い方について、通信をだしたり、集会・講演会を実施して共通理解をはかる取り組みを進めたため、ポイントが高くなっている。継続して指導していきたい。
		保護者	15. 子どもと、避難所での生活について、話をしている。	2.59	54.50	C				
地域	地域性	教師	15. 生徒に、避難所での生活について、指導をしている。	2.58	50.00	C	92.9	A		
		生徒	16. スマホ(タブレット)のメリット、デメリットがわかっている。	3.54	96.20	A				
地域	地域性	保護者	16. 子どもと、スマホ(タブレット)のメリット、デメリットについて話をしている。	3.22	90.70	A	92.9	A	ネットモラルについての学習を定期的実施し、スマホやSNSの適切な使い方について、専門家を招いて規範意識向上の講演を開催するなど、地道に取り組んでいる。一人一人適切な使用の基準が違いため、実際の使用については、ここまでできているか不明な部分もある。	
		教師	16. 生徒に、スマホ(タブレット)のメリット、デメリットについて指導をしている。	3.54	100.00	A				
地域	地域性	生徒	17. スマホ(タブレット)の適切な使い方ができる。	3.4	94.40	A	84.3	B		日頃から自分の命や身体を一番に行動を考え、行動できるように、支援する。不審者が出た時、すぐにメールや通信等を出して注意を促した。本年度は1学期に自分の心と体を守るための講演を専門家から聞いて学習した。継続して指導していきたい。
		保護者	17. 子どもに、スマホ(タブレット)を使う際のルールを決めて、指導している。	3.1	84.30	B				
地域	地域性	教師	17. 子どもに、スマホ(タブレット)の適切な使い方ができるよう指導している。	3.38	100.00	A	60.9	C	不審者の情報が出されたときに、その情報を・クラス・学年・部活動等で確実に情報を伝え、対処法を確認している。本年度は、大幅に不審者の数が減り、出たしそうな場所もほとんど認知されない状況である。	
		生徒	18. 不審者に遭遇した時の対処法を身に付けている。	3.14	80.60	B				
地域	地域性	保護者	18. 子どもに、不審者に遭遇した時の対処法を指導している。	3.07	84.90	B	87.5	B		
		教師	18. 生徒に、不審者に遭遇した時の対処法を指導している。	3.12	87.50	B				
地域	地域性	生徒	19. 不審者が出たしそうな場所を知っている。	2.73	61.40	C	60.9	C		
		保護者	19. 子どもに、不審者が出たしそうな場所を教えている。	2.75	63.10	C				
地域	地域性	教師	19. 生徒に、不審者が出たしそうな場所を教えている。	3.83	58.30	C	87.5	B	スマホ等の普及や学習塾へ遅くまで通うなど、就寝時間が遅くなる傾向にある。基本的な生活習慣の指導を継続して行っていく。	
		生徒	20. 規則正しい生活を行うために、夜寝る時間や朝起きる時間を守っている。	2.95	72.80	B				
地域	地域性	保護者	20. 子どもに、夜寝る時間、朝起きる時間が規則正しくなるよう声掛けしている。	3.31	93.90	A	87.5	B		
		教師	20. 生徒に、夜寝る時間、朝起きる時間が規則正しくなるよう指導している。	3.21	95.90	A				
地域	地域性	生徒	21. 友達とトラブルにならないように気を付けていて、もしトラブルになっても解決できる。	3.22	88.00	B	92.4	A	トラブル等は早期発見し、早期指導の体制がある。そのため、生徒が教員の支援なしにトラブルを解決していく機会が減っている。教員の支援がどの程度必要かの判断が難しい。	
		保護者	21. 家庭内で、子どもに相手の気持ちや立場になって考えるように話している。	3.44	98.10	A				
地域	地域性	教師	21. 生徒に、相手の気持ちや立場になって考えたり、トラブルになった時の対処法を指導している。	3.46	100.00	A	92.4	A		
		生徒	21. 友達とトラブルにならないように気を付けていて、もしトラブルになっても解決できる。	3.22	88.00	B				

評価換算とは、アンケートの質問[4:とても当てはまる 3:当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない]について、4と3の合計(肯定的な回答)が90%の以上でA、70%以上でB、70%未満でC、30%未満でDと換算する。